

社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 開院 9 周年記念事業のお知らせ

★オゾンクラスター設置★

現在、ER 室と CT 室に接している高濃度オゾンクラスター 2 台に加え、さらに 8 台を追加し合計 10 台。また新たに低～中濃度オゾンクラスターを 84 台、合わせて総計 94 台を本院、デイ永田、デイ今津、サ高住、更衣室に 6 月初旬を目途に設置し、患者様ならびにスタッフ間でのクラスター予防を徹底します。



オゾンクラスター：84 台設置予定

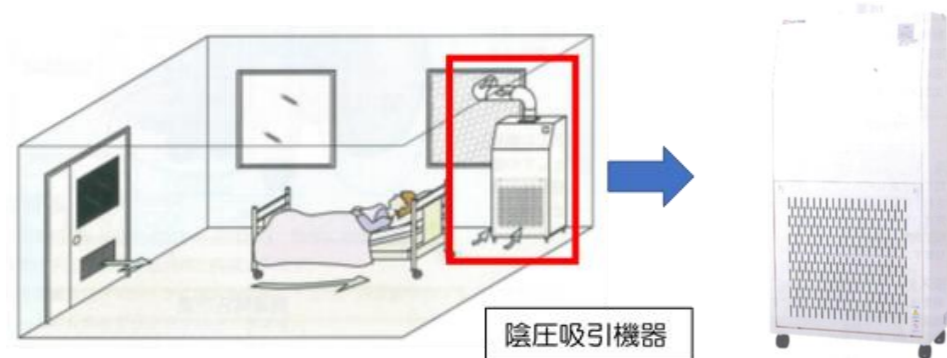
★調剤薬局が増築されます★

病院入口に調剤薬局が増築されます。工事は既に開始しており、6 月下旬頃完成予定としております。



★陰圧室設置★(空気感染に対応した病室)

ER 室(2 箇所)、CT 室、血管造影室にフィルター式陰圧装置を合計 3 箇所、2 階ゾーニングに使用している個室 3 室に陰圧装置を合計 3 箇所、総計 6 箇所に 6 月下旬をめどに設置し、スタッフの感染リスクを軽減します。



★1 階新待合室の設置★

外来待合 3 密を防止するため、パワリハ横通路(旧感染外来スペース)から CT 前室に至るスペースに、屋根付き屋外廊下、新待合室を新規築工事終了後の 6 月下旬の着工を目指し進めています。なお、この新待合室の横の風除室等入口は北区画に増床増築する場合の暫定救急車受け入れ口となる予定です。



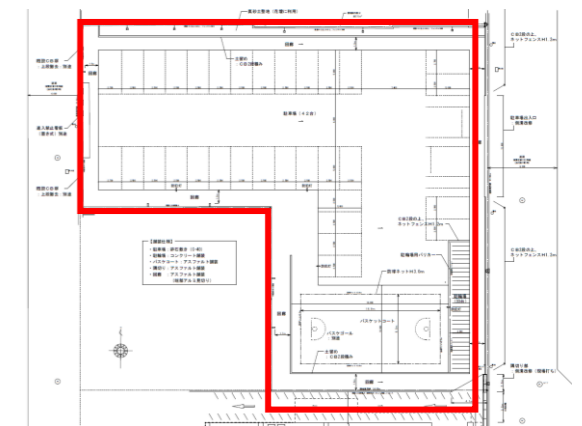
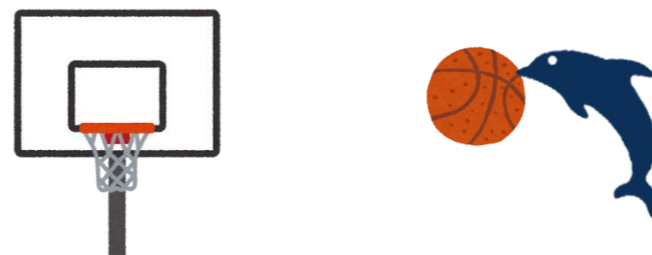
イメージ図

★PPE グッズの充足★(個人用防御具)

早い段階で PPE グッズの充足に力を入れたため、各スタッフの手元にガウン・ゴーグル・フェイスシールド等を渡すことができました。

★北区画駐車場整備★

患者様はもちろん、職員の利用も考慮した駐車場と、皆様にご利用頂けるバスケットコートを設置します。





奈良県政・経済記者クラブ、奈良県文化教育記者クラブ、橿原市政記者クラブ、大阪科学大学記者クラブへの同時配布

令和2年5月14日
公立大学法人奈良県立医科大学
一般社団法人MBTコンソーシアム

報道関係各位

(世界初) オゾンによる新型コロナウイルス不活化を確認 (世界初) オゾンによる新型コロナウイルス不活化の条件を明らかにした。

概要

奈良県立医科大学（微生物感染症学 矢野寿一教授、感染症センター 笠原敬センター長）とMBTコンソーシアム（感染症部会会員企業：クオール株式会社、三友商事株式会社、株式会社タムラテコ）の研究グループは世界で初めてオゾンガス曝露による新型コロナウイルスの不活化を確認しました。また、その不活化の条件を実験的に明示することにより、実用性を学問的に示しました。

背景

診察室や集会場等においては、感染拡大防止のため使用後は手作業によるアルコール拭き等で除菌を行っており、労力と時間がかかっていました。

この課題を解決する手段の一つとして、オゾンガスによる除菌が提唱されていましたが、その医学的エビデンスはありませんでした。

この度、奈良県立医科大学を中心とする研究グループはオゾンガス曝露による新型コロナウイルスの不活化実験を行い、オゾンにより、新型コロナウイルスが不活化されること、ならびに、オゾンの濃度と曝露時間の条件とオゾンの不活化の関係について実験的に明らかにしましたので報告します。

実験内容

新型コロナウイルス細胞株を培養し、安全キャビネット内に設置した耐オゾン気密ボックス（アクリル製）内に、ステンレスプレートを設置し、実験対象の新型コロナウイルスを塗布します。

耐オゾン気密ボックス（アクリル製）内に設置したオゾナイザー（PMDA認証の医療機器：オゾン発生器）を稼働させて、耐オゾン気密ボックス内のオゾン濃度を1.0～6.0ppmに制御し維持させます。

オゾンの曝露量はC T値で設定します。（厚労省PMDAによる医療機器認証の実証実験値であるC T値330や、総務省消防局による救急隊オゾン除染運用値であるC T値60を使用。）

曝露後ウイルスを細胞に接種し、ウイルスが細胞に感染しているかを判定しウイルスの量を算出します。この実験は、本学がバイオセーフティーレベル3の実験室を保有し、ウイルスの培養技術を保有していることで可能となりました。